

競泳・松田選手が日本代表入り

セガサミー所属 リオ800フリーリレー出場

セガサミーホールディングス(東京都港区)に所属する競泳の松田丈志選手が、今年開催されるリオデジャネイロオリンピック競泳800mフリーリレーの日本代表に選出された。

松田選手は4大会連続でのオリンピック出場を果たすべく、約25年にわたり二人三脚で歩んできた久世由美子コーチのもと、厳しいトレーニングを積んできた。このたび、第92回日本水泳選手権競技大会の男子200m自由形決勝において1分46秒88のタイムでフィニッシュ。リ

レー派遣標準記録を突破し代表選出となった。

松田選手は、1984年宮崎県生まれの31歳。長水路200mバタフライ、同800m自由形の日本記録およびアジア記録を保持。オリンピックでは、2008年の北京オリンピック(200mバタフライ・銅メダル)、12年のロンドンオリンピック(200mバタフライ・銅メダルおよび400mメドレーリレー・銀メダル)に続き、リオデジャネイロオリンピックで4つ目のメダル獲得を目指す。なお、同選手はこの快

挙に対し、「年齢の壁もあり、どこまで結果を残すことができるのか未知数だった」と心境を吐露。「これから4カ月間、緊張感を楽しみながら、メダルを獲得できるよう必死に頑張っていく」とコメントしている。セガサミーを含め、遊技産業に携わる企業はメーカー、パチンコホールなど業態を問わず積極的にアスリート支援を展開。子供たちをはじめ、人々に夢と希望を与えるべく、その規模も対象もさまざまに、寄付にとどまらない活動に注力している。

(ニュース提供・LOGOS×娯楽産業)

遊技産業の視点 Weekly View

岸本 正一



ホールマーケティングコンサルタント
LOGOSプロジェクト上級研究員

遊技業界というフィールドを中心にマーケティングの研究を続けている筆者は、近年の遊技参加人口の減少トレンドについて、必ずしも射幸性の高さ(時間あたりの消費金額の多さ)だけが原因ではないという解釈に妥当性を見いだしはじめた。論点は娯楽における「益」についての考え方にある。

社会が豊かになり、世の中に娯楽が氾濫しだすと、娯楽の本質は「娯楽の選択」から始まる。娯楽の多様化が消費者のセグメント化を進行させ、選択したセグメントにこだわりを持つことにマニアの快感を得る人々も増加する。すなわち「娯楽の多様化の進行」だ。これだけでも昔から存在する娯楽の1セグメントに過ぎないパチンコ・パチスロの参加人口が減少する理由の一つになるだろう。

しかしながら、それ以上に重要なのは娯楽の選択行為における消費者マインドの変化だ。そもそも娯楽とは、非生産的で有形の「益」を伴わないものが多い。この例で筆頭に挙げられるのが「釣り」だ。魚を得ることだけが目的であれば地引き網を使うはず。たった1本のさおで海や川に繰り出すのは、そのプロセスに面白みが存在するためであろう。だが、現代社会における(特に若年層の)価値観は、年々無駄を許容しない方向に変化しているように思われる。事実、通信技術の進歩はeコマースを拡大させ、消費者は店舗に向かうという無駄を省いて商品を手に入れている。

高射幸性遊技機は、その消費金額を考えると、有形の「益」が伴わなければパチンコ・パチスロは参加する価値のない娯楽であることを消費者に知らしめてしまったのではないだろうか。

ふたたび遊技業界に追い風を吹かせるためには、パチンコ・パチスロという娯楽に対する社会的再定義が不可欠なはず。娯楽とはそもそも多少の無駄を伴うものであり、物理的な「益」を求めない遊びであるという感覚を社会が取り戻さなければ、パチンコ・パチスロのみならず、いかなる娯楽も熱を帯びてこない気がしてならない。

きしもと・しょういち オペレーション代表。

1963年生まれ。元SEの経験を生かし、遊技場の集客メカニズムを論理的に整理・研究する傍ら、全国のパチンコホールを対象にコンサルティングを行う。雑誌への連載やテキストの出版、セミナーでの講演なども手掛ける。



写真にスマホをかざしてください



紙面連動アプリ「メディアトリガーplus」(無料)を起動、コンテンツ一覧から「かざす」をタップ。マークのついた写真を取り込むと、関連した情報サイトが閲覧できます。iPhone、Androidいずれもご利用可能です(一部対応しない機種があります)。

- ※メディアトリガーplusの注意点
- ・本サービスはGPSデータを含むアクセス情報を取得しています。
- ・携帯電話回線を使っての通信費用はご利用者の負担になります。

遊技業界、総会シーズンに突入

ピックアップ

4月に入り、遊技業界の各組合・団体も総会シーズンに突入した。7日には、日本遊技関連事業協会(日遊協、会長・庄司孝輝氏)の九州支部(支部長・樋口益次郎氏)が福岡市博多区のグランド・ハイアット福岡で2016年度支部総会を開催。多くの組合関係者が出席した。

冒頭、あいさつに立った樋口支部長は「丙申にあたる本年は、既存勢力や秩序が乱れて大激動の年になるとある。これはまさに、われわれの遊技業界を予見している」と指摘。「われわれは、この『我々』を前提として成立する事象にややもすれば傾斜しがちだが、改めて何を基準に考えるのか。もう一度、お客さまのことを考えて、この業界が発展できるのか。その考え方の質が問われている」と呼びかけた。

続き、日遊協の庄司会長があいさつで、昨今の社会情勢を俯瞰しつつ「いま何をしないといけないのか。業界団体は各種問題に対して整合性を取りながら遊技産業全体としての意見を固



総会後には「のめり込み問題」についてRSNの西村代表らが講演した

めていかなければならない段階に来ている」と問題提起。「支部会員には来年、再来年を見越した中長期的な視点を持って活動していただきたい」と訴えた。

なお、任期満了に伴う役員改選では、新支部長に福山裕治氏を選任。福山新支部長は就任に伴い「業界の存続、そして次世代へ健全な形で引き継ぐことができるのか。われわれの今後の行動が大きな役割を果たすことになる」とあいさつした。来賓祝辞では、九州管区警察局長登壇。射幸性の抑制に向けた取り組みなどへの積極的な対応を期待するとともに、サミット開催に伴う協力および暴力団排除活動への継続的な取り組みを要請した。

総会後に開かれた講演会では、特定非営利活動法人リカバ

リーサポート・ネットワーク(RSN)の西村直之代表理事が「パチンコ・パチスロ依存(のめり込み)問題とその対策」について講演。RSNの電話相談データから、遊技開始年齢と依存が問題化した年齢までの間隔が短くなってきていることを指摘。ユーザー疲弊の危惧を訴えた。

また、日遊協依存問題プロジェクトチームリーダーの安藤博文氏が「自己申告プログラム」について解説。昨年末に導入したピーアークホールディングスの複数店舗に続き、今年に入りパル京成、ABC富士今泉店、ZENT可児店、マルハン大田店、スーパージャンボ(導入順に記載)が新たに導入に踏み切ったと報告。事例を挙げつつ、その必要性をアピールした。

業界団体だより

東遊商、福島・南相馬市で苗木植樹

東日本遊技機商業協同組合(東遊商、理事長・中村昌勇氏)は3月27日、福島県南相馬市谷田部地区で行われた「第3回南相馬市鎮魂復興市民植樹祭」に参加。東遊商では、東日本大震災復興支援の一環として「瓦礫を活かす森の長城プロジェクト」に協賛しており、当日は組合の社会貢献委員会メンバ

ーが植樹に参加した。同プロジェクトは、被災地へ出たがれきを積み上げ、土を盛って小高い山を造成。そこに成長が早い木々を植えることで「災害からいのちを守る森」を作っている。

谷田部地区一帯は、震災で発生した津波で甚大な被害を受けたエリアだが、昨年植えた苗木

が1mを超えており、今回は新たに2万本のシイやタブなどの苗木を植樹した。

東遊商は、2013年に中村理事長ら役員と社会貢献委員会メンバーが宮城県岩沼市で行われた植樹祭に参加。以降、継続的な協力姿勢のもと、南相馬市での活動も今年で2度目になる。

昨年度は、宮城県でのどんぐ



「第3回南相馬市鎮魂復興市民植樹祭」には、東日本遊技機商業協同組合の組合員を含む約2000人が参加した。福島県南相馬市

り拾い活動や苗木ポットを作るボランティアを通じて被災地の復興勉強会への出席など、植樹ポラ支援活動に注力している。

「益」求めない感覚を取り戻す